

熊本県初の国宝

あ　お　い　あ　そ　じん　じや
青井阿蘇神社



青井阿蘇神社「龍の彫物」と本殿正面

人吉市上青井町に位置する青井阿蘇神社は、平成20年6月9日付けで「重要文化財のうち極めて優秀で、かつ、文化史的意義の特に深いもの」として、文部科学大臣から熊本県で初めての国宝の指定を受けました。

郷土熊本の誇りにつながるもので、文化財を守り伝えることの大切さや、先人への思いをはせる機会になれば幸いです。

国宝とは？

私たちの身の回りにはたくさんの数の文化財がありますが、そのすべてを守ることは難しい面があります。このため、これらの文化財のうちの特に価値の高いものを選び、後世にそのままの姿で伝えるために、特に法律や条例によって守ることを表明した文化財を「指定文化財」と呼びます。指定文化財には、市町村指定・県指定・国指定など、その価値についていくつかのランクがありますが、文化財保護法によって国が認めた文化財が国指定文化財です。国指定文化財のうち、建物や美術工芸品など、物として指定されたものを重要文化財と呼びますが、さらに、国は、の中でも特に優れたもので、世界に誇れる価値のあるものを「国宝」として、特別な価値付けをしているのです。つまり国宝は、数ある文化財の中でも最も高い価値を持つ存在です。

現在の文化財保護制度は、昭和25年の文化財保護法の制定と同時にスタートしました。このほど国宝に指定された青井阿蘇神社は、実に58年に及ぶ文化財保護制度の歴史の中で、熊本で初めて誕生した国宝ということになります。また、国宝建造物としては日本の最南端に位置するものです。

国宝

重要文化財のうち世界文化の見地から価値の高いもので、たぐいもない国民の宝たるもの



国指定文化財

日本の国が世界に持つ大切な文化財。
国指定文化財のうち、世界的にも特に重要な文化財に「国宝」(特別保護)・
「特別天然記念物」があります。



県指定文化財

熊本県が全国に持る大切な文化財。



市町村指定文化財

市町村を代表する大切な文化財。



熊本と国宝

熊本ゆかりの国宝としては、青井阿蘇神社以外にも忘れることのできないものがあります。玉名郡和水町にある江田船山古墳から明治6年に発見された出土品です。冠や耳飾り、大刀や鏡、盞など、およそ90点にのぼる副葬品で、特に75文字が刻まれた「銀鏡嵌銘大刀」が示すように、我が国の古代史を語る上で欠かせない貴重な資料であるとして、昭和40年に一括して国宝に指定されました。

ただし、これらの出土品は、発見後ほどなく明治政府が買い上げたため、現在は東京国立博物館(平成館)まで出かけていかないと見ることができません。平成11年には、熊本国体開催にともない、128年ぶりに、県立美術館で念願の里帰り展が開かれ、多くの人々が訪れたのは記憶に新しいところです。

青井阿蘇神社は、県民のみなさんが、いつでも身近に触ることのできるものです。今回の青井阿蘇神社の指定は、名実ともに、国の宝であり、かつ、熊本県民にとっての宝の誕生につながったということができると思います。



冠帽



盞

船山古墳出土品(レプリカ)



○文化財保護法

第二十七条 文部科学大臣は、有形文化財のうち重要なものを重要文化財に指定することができる。
2 文部科学大臣は、重要文化財のうち世界文化の見地から価値の高いもので、たぐいもない国民の宝たるものを国宝に指定することができる。

青井阿蘇神社の国宝への道のり

昭和8年(1933)1月23日 「国宝指定」(国宝保存法)

昭和25年(1950)8月29日 「国重要文化財」(文化財保護法)

平成20年(2008)6月9日 「国宝」(文化財保護法)

なぜ国宝になったか

- 【国文化審議会の評価】 国の文化審議会では、次のような評価がなされました。
- ①青井阿蘇神社の社殿群は、慶長年間に一連のものとして造営されたものであり、統一的意匠を持ち、完成度も高い。
 - ②各社殿は中世球磨地方に展開した独自性の強い意匠を継承しつつ、桃山時代の華麗な装飾性も機敏に取り入れ、近世の球磨地方における社寺建築の手本となっている。
 - ③本殿前面の雲龍など要所を飾る秀麗な彫刻、特異な幣・拝殿形式などは、広く南九州にその影響が認められ、南九州地方における近世神社建築の発展において、深い文化史的意義が認められる。

ポイント1:左右一対の龍の彫り物

廊に向って右柱には、口を開けた龍が刺を持ち、左柱には、口を閉じた龍が梵鐘を巻き込んだ姿が彫刻されています。この龍の彫り物は、南九州の文化圏の中で発展したもので、現存するものでは青井阿蘇神社が最古の例です。この形式は南九州の近世社寺建造物に影響を与えたと考えられています。



青井阿蘇神社（慶長 15 年:1610）

熊本県人吉市上青井



霧島神宮（正徳 5 年:1715）

鹿児島県霧島市霧島



霧島東神社（嘉永 2 年:1849）

宮崎県西諸県郡高原町

ポイント2:青井阿蘇神社の平面形式

青井阿蘇神社の平面形式の特徴は、T字型になった拝殿の形式にあります。拝殿の内部が拝殿、神楽殿、神供所の三部屋に仕切られております。

一般的な神社は、方形の拝殿のみであり、T字型は青井阿蘇神社独特のものです。なお、他の球磨地方の神社は、細長い拝殿と神供所がL字型（鍵型）になっています。

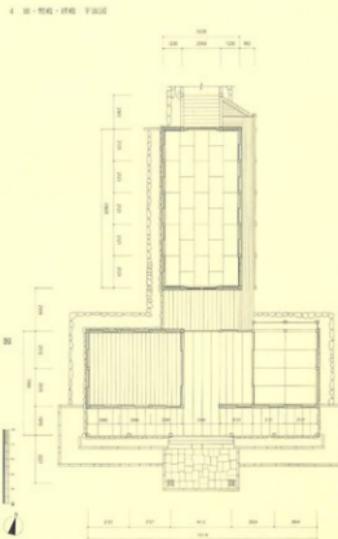
なお、神楽殿には、地方独特な舞台装飾が施され、10月8日には国選択の無形民俗文化財「球磨神楽」が演じられます。



一般的な神社



球磨地方に見られる神社



青井阿蘇神社の平面（神楽殿と神供所が前面にある）

青井阿蘇神社の指定された建物

- ①本殿（慶長15年(1610)造）：三間社流造、銅板葺
 ②廊（同上）：桁行1間、梁間1間、一重、切妻造、銅板葺
 ③幣殿（同上）：桁行5間、梁間3間、一重、寄棟造、茅葺
 ④拝殿（慶長16年(1611)造）：桁行7間、梁間3間、一重、寄棟造、茅葺、向拝1間、唐破風造、銅板葺
 ⑤楼門（慶長18年(1613)造）：三間一戸楼門、寄棟造、茅葺

附：⑥棟札1枚 慶長15年(1610)3月28日、

⑦銘札5枚 享保9年(1724)5月28日、寛保元年(1741)4月11日

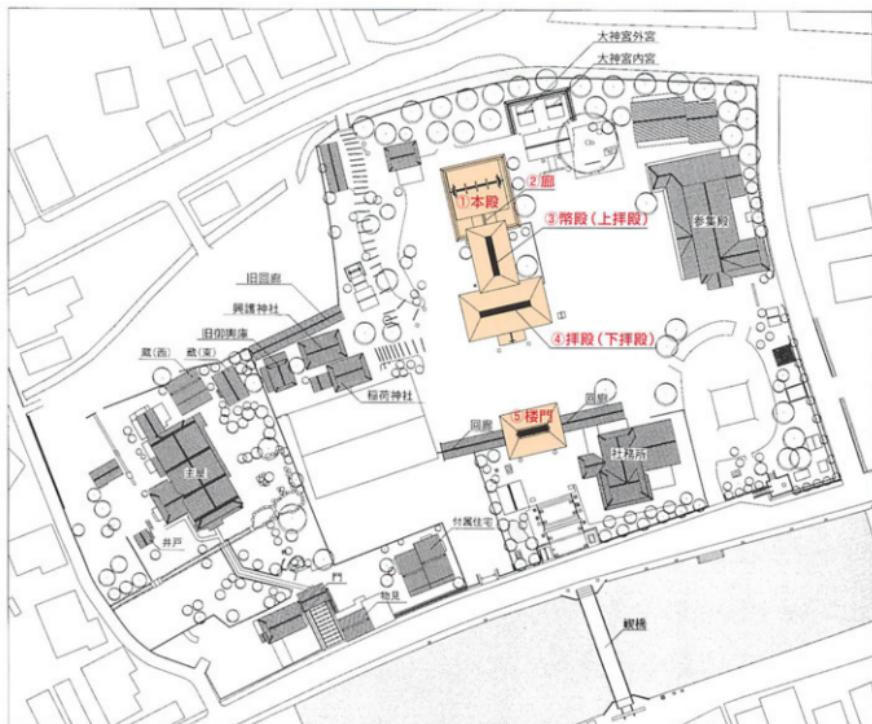
寛延4年(1751)4月15日、安永6年(1777)2月23日

安政2年(1855)4月

国宝指定書

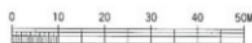


附指定とは、国指定物件の価値を補完するものです。棟札と銘札が附指定されていますが、これらは、社殿の建造された経緯やその後の修理の状況などが記された貴重なものです。



青井阿蘇神社と、その周辺図

指定物件





①本殿 御神体を安置する社殿です。



②廊 建物間を接続する渡り廊下です。龍の彫り物が見事です。



③幣殿 へい宸 （さかき）
祭儀を行い、幣帛（さかき）（柳の枝に掛けて、神前にさげる麻や楮（こう）で織った布）を奉る社殿です。歴代の相良氏が、お龍も祀られた所でもあります。



④拝殿
祭祀・拝礼を行なうための
社殿で内部は3区画されて
います。向かって右側が、
神供所、中央が拝殿、左側
が神楽を舞う神楽殿となっ
ています。



⑤楼門
神社への入口に建つもので、この楼門
は、2階建てで1重目に瑞雲が造られ
ています。また、垂木には「人吉様式」
と言われる神面が四方に取り付けられ
ています。



⑦銘札（安永6年：1777）
右（表）左側（裏）

⑥棟札
慶長15年（1610）

慶長15年の棟札（左）です。本殿の完成した年月日や施主・
大工などが記されています。また、安永6年の銘札（右）に
は、本殿の屋根を葺き替えたことなどが記されています。

青井阿蘇神社のミニ知識

青井阿蘇神社は、大同元年(806)9月9日に創建されたもので、延久中年(1189~98)には、相良家初代長頼が
遠江(現・静岡県西部)から当地を支配するに当たり、相良氏の氏神として代々尊崇されてきました。

以来、藩主は、球磨郡内で疫病が流行すると、人々の平安を願い悪疫退散の大祈願を行ったり、朝鮮出兵時には、自らの武運長久を祈願したりしました。

社名については、延宝5年(1677)に青井大明神の額が楼門に掲げられたことが知られており、その後、明治元年(1868)に青井大明神を青井神社に改称、さらに明治5年(1872)に現在の青井阿蘇神社の名称となりました。

明治15年(1882)に本殿屋根を相良氏に替わって球磨郡中の寄付金で葺き替えられましたが、このように新体制になってからは、地域の人々により大切に守り伝えられてきました。

御神体

青井阿蘇神社は、大同元年に阿蘇神社の分靈を勧請したとされるもので、祭神は、
阿蘇十二神の内の健磐龍命、その妃の阿蘇都媛命、お二人の子供の国造速玉命
の三神とされています。

嘉慶2年(1327)には、銅造十一面觀音菩薩坐像掛仏、応永16年(1409)、
直径1メートルほどの掛仏の奉納など、当時の神仏習合の様子をうかがわせる貴重なものです。

神仏習合とは、日本の神々は仏教の仏菩薩と同じとみなし、仏菩薩を神となつて現れた姿とするという考え方です。このような考え方は、江戸時代まで続きました。



応永 16 年銘掛仏

青井阿蘇神社の祭

おくんち祭、夏越祭、稻荷神社の初午の三大祭をはじめ、四季を通じて様々な祭が
行われます。中でもおくんち祭は、めでたい重陽の日(9月9日)に神様が鎮座された
ことを祝う盛大な祭で、現在は10月9日の神幸式を中心に3日から11日まで行われ
ます。8日夜は勇士な球磨神楽が行われ、神幸式では神輿、獅子舞、神馬、稚児など約



球磨神楽

3000名の長い行列が市街地を練り歩きます。旧
暦6月30日の夏越祭は茅の輪くぐりや人形流し
で罪・穢れを祓い清める祭で、2月の初午は五穀
豊穫や商売繁盛を祈願する祭です。

至徳3年(1386)に夏越祭が、文明4年(1472)
に神楽が、慶安5年(1652)には藩主による神楽
太鼓奉納が行われたという記録があり、数百年間
変わることのない祈りの姿を今に伝えています。



おくんち祭り「神幸式」

造った人々

慶長15年の棟札によると、相良家第20代毎(頼房)と家臣の相良清兵衛(藤原
頼兄)、その子頼安により、同14年に着手され、本殿・廊・幣殿は翌年、拝殿は同16年、
楼門は同18年に完成しました。

また、造営にあたっては、長毎の家臣で藩主と並ぶ権力を持っていた相良清兵衛が、
寺社奉行として現在の社殿の建設に力を尽しました。この清兵衛屋敷跡は、人吉
城跡の人吉城歴史館で一部が公開されています。

なお、同棟札には、惣大工として窪田正市允・愛甲喜七郎をはじめ、小工数十人と
書かれています。惣大工は大工・小工を指揮した者と思われます。



相良長毎像（相良神社所蔵）

建物の装飾の特徴



本殿妻の装飾
柱には藤の花が彫られています。



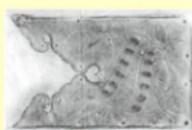
本殿扉内側の装飾
社紋である鷲の羽が描かれています。



楼門の影刻「二十四孝」の部分
朱秀昌が老母とめぐり会う場面です。



幣殿内側小壁の影刻
小壁の装飾の図柄は、通常区画ごとに完結していますが、本社では連続して描かれています。



幣殿のかざり金具
最新の流行が取り入れられています。



幣殿外側の装飾です。



楼門の木組みです。



楼門に見られる神面です。

文化財・国宝青井阿蘇神社の教育への活用

地域に住む人々の共通の思い出と言えるものが歴史であり、地域の歩みを示す思い出がたくさん詰まった証拠の品が文化財です。そのために多くの場合、文化財は、それぞれの地域がその地域であること示す上で、象徴的なものとなっています。

ところで、文化財には、さまざまな種類があります。なかでも建造物は、美術工芸品や埋蔵文化財とは違い、いつでも誰でも目にすることができるもので、多くは地域のランドマーク（地域の目印）となっています。

また、今回指定された青井阿蘇神社のような社寺建築は、地域に住む人々の思いや願いが込められています。たとえば、楼門や幣殿を飾る彫刻の題材となった「二十四孝」は、「親に孝養を尽くす子よ出でよ」という、先人の思いが込められたものでしょう。

このように、文化財は、地域を知る上で欠かすことのできない教材なのです。文化財が、学校教育や生涯学習など、さまざまな機会に活用されることを願っています。

図版の提供及び協力者

- ・青井阿蘇神社
- ・人吉市教育委員会
- ・和水町教育委員会

文化財通信くまもと 第26号 平成20年11月14日

発行：熊本県教育庁文化課 TEL 096(333)2704

FAX 096(384)7220

文化課ホームページ「くまもとの文化」アドレス

www.pref.kumamoto.jp/education/hinokuni

県内の国・県指定・社寺建築

国指定

NO	名 称	所在地
1	青井阿蘇神社	人吉市
2	阿蘇神社	阿蘇市
3	六殿神社楼門	熊本市
4	老神社	人吉市
5	岩屋熊野座神社	人吉市
6	青蓮寺阿彌陀堂	多良木町
7	明導寺阿彌陀堂	湯前町
8	八勝寺阿彌陀堂	湯前町
9	十島菅原神社	相良村
10	山田大王神社	山江村
11	生善院觀音堂	水上村



②阿蘇神社

③六殿神社樓門



県指定

NO	名 称	所在地
12	八代神社	八代市
13	井口八幡神社	人吉市
14	大信寺地藏堂	人吉市
15	王宮神社樓門	多良木町
16	宮原觀音堂	あさぎり町
17	須應訪神社	あさぎり町
18	井沢熊野座神社	相良村
19	神淵住吉神社	球磨村



⑦明導寺阿彌陀堂



⑧山田大王神社



⑨老神社



⑩八勝寺阿彌陀堂(扇子)



⑪岩屋熊野座神社



⑫生善院觀音堂



⑬十島菅原神社



⑭青蓮寺阿彌陀堂

この分布図で分かるように、人吉・球磨地方には、国・県指定文化財の社寺建築が数多く集まっています。

人吉・球磨の歴史と社寺建築

時代	主な出来事
平安	794 都が平安京に遷される 806 青井阿蘇神社(人吉市)の創建
鎌倉	1192 源賴朝、鎌倉に幕府を開く 1205 祖良長頼、人吉在の地頭となる 1229頃 明導寺阿彌陀堂(湯前町)の建立
室町	1416 王宮神社樓門(多良木町)の建立 1443 青蓮寺阿彌陀堂(多良木町)の建立 1448 祖良長頼が上相良氏を滅ぼし球磨郡を統一 1484 相良為経、初めて八代へ進出 1485 為経、球磨・芦北・八代の3郡支配を実現 1490 八勝寺阿彌陀堂(湯前町)の建立 1542 井沢熊野座神社(相良村)の建立 1546 山田大王神社(山江村)の建立 1549 六殿神社樓門(熊本市)の建立と伝えられる 1552 須應訪神社(あさぎり町)の建立 16世紀 中頃 宮原觀音堂(あさぎり町)の建立 1555 相良長頼、一向宗を土誓する 1573 室町幕府滅ぶ
安土・桃山	天正年間 岩屋熊野座神社(人吉市)の建立 1582 織田信長、本丸寺で殺される 1587 相良長頼、九条征伐に来た秀吉と会い、球磨郡を安堵される 1589 十島菅原神社(相良村)の建立 1592 相良氏、秀吉の役に出席(朝鮮出兵) 1596 相良氏、慶長の役に出席 1600 開ヶ原の戦い、相良氏は東軍につき所領を没収される
江戸	1603 德川家康、江戸に幕府を開く 1610 青井阿蘇神社(現在の社殿)の建立 1625 生善院觀音堂(水上村)の建立 1628 老神社(人吉市)の建立 1637 島原の乱起ころ(~1638) 1645 大信寺地藏堂(人吉市)の建立 1664 人吉の守林正蔵、球磨川を開削する 1697 人吉藩主高橋政重、幸野清の工事に着手 1699 井口八幡神社(人吉市)、神淵住吉神社(球磨村)の建立 1835~1850 阿蘇神社(阿蘇市、現在の社殿)の再建 1867 德川慶喜、大政奉還